

令和6年度 農学分野データサイエンス教育ワークショップ

農学分野データサイエンス教育における応用事例
ースマート農業を事例とした社会実装と人材育成ー

農学分野では、担い手の減少・高齢化の進行等により労働力不足が深刻な問題となっている。一方、農業の現場では、依然として人手に頼る作業や熟練者でなければできない作業が多く残されており、省力化、人手の確保、負担の軽減が喫緊の課題となっている。生産現場の課題をロボット、AI、IoT等、先端技術で解決する「スマート農業」を推進するため、これらの技術を生産から出荷まで一貫した体系で導入・実証し、経営への効果を明らかにすることで社会実装を図る「スマート農業実証プロジェクト」を展開している（農林水産省、2019）。

「スマート農業」を進める上では、ロボット、AI、IoT等、先端技術の習得など、データサイエンスに基づく人材教育も重要な課題の一つである。そこで、この「スマート農業」×「人材育成」について、施設園芸の分野では、高知大学IoP共創センターの先進的な取り組み事例が注目を集めている。IoP（Internet of Plants）とは、作物生産を決定づける光合成や成長など生理生態情報を「見える化」して、生理生態情報に基づく合理的な営農支援情報として「使える化」を行い、それらの情報を産地で「共有化」する仕組みである（出展：高知大学IoP共創センター<https://www.kochi-u.ac.jp/iopc3/about.html>）。

そこで、本ワークショップでは、野村浩一准教授（高知大学IoP共創センター）をお招きして、高知大学IoP共創センターの取り組みと人材育成についてご講演いただき、農学分野におけるデータサイエンス教育への応用や人材育成について討議する。

日時：2024年 9月19日(木) 16:00～17:05

形式：オンライン

【プログラム】

16:00-16:05 開会の辞 宮口 右二 農学部長（茨城大学）

16:05-16:10

司会 臼井 靖浩（茨城大学）

事例紹介

16:10-16:50

野村 浩一（高知大学）

「高知県Internet of Plants (IoP)プロジェクトにおける取組の紹介」

16:50-17:00

質疑応答

17:00-17:05

挨拶

小林 亮太（東京大学）

17:05-

閉会の辞

浅木 直美（茨城大学）

お
申
込
み

Webサイトより事前登録（事前登録のうえ、アクセス情報を取得してご参加ください）

<https://forms.gle/cNdsMyFXqu22ogiB8>

定員300名 ※関東ブロック以外、会員校以外の皆様にもご参加いただけます



主催 数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアム 関東ブロック連携校 茨城大学

数理・データサイエンス・AI
教育強化拠点コンソーシアムお問い合わせ 茨城大学農学部 岡山 毅
E-mail: tsuyoshi.okayama.3@vc.ibaraki.ac.jp参加
無料